

令和8年度

由岐小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○少人数のよさを生かし、個に応じた「できる・わかる」授業づくりを行い、生きて働く知識・技能を身につけさせる。
○各教科の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る。

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

研究授業を行い、管理職による授業参観、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習にこつこつと取り組み、苦手な課題に対しても粘り強くやり抜く姿勢が身についている児童が多い。 ●文章を書くときに、既習漢字を使ったり、まとまりに分けて書いたりすることが苦手な児童が多い。 ●速く正確に計算することに課題がある。	・日頃から、既習漢字を使って文章を書くことができる。 ・分からない言葉や漢字は自分から進んで調べることができる。 ・「、」「。」を使って相手が読みやすい文章を書くことができる。 ・四則計算を速く正確にできる。	・ミニテストを定期的に実施する。 ・辞書を使ったり人に尋ねたりする習慣を身に付けさせる。 ・あわスタや子ども新聞を活用しながら、相手が読みやすい文章の書き方指導を行う。 ・朝活や算数科の学習で100マス計算を取り入れる。 ・読書の時間を引き続き確保する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを文章に書くことができる児童が多い。 ●語彙が少ないことから表現の仕方が乏しく、自分の考えや思いを端的に伝えることが苦手な児童が多い。	・発表や話し合い活動を通して、筋道を立てて自分の考えを話したり書いたりすることができる。 ・既習事項を使って、自分の考えを導き出すことができる。 ・話し合い活動で、折り合いをつけて結論を出すことができる。	・話し合いの時間を意図的につくり、教員がファシリテーターとなって意見を拾い、話し合いの手本を見せる。 ・ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、少人数での発表の場を多くつくる。 ・どんな些細な気づきや予想でも教員が認め、気づくこと、予想することの大切さや楽しさに気づかせる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○好きな事や得意な事に対しては素直に取り組むことができる。 ●勉強が好きではなかったり、諦めが早く、チャレンジしようとしなかったりする児童が多い。	・自分の今できていることやよさを知り、自信をもって新たなことや苦手な事にチャレンジできる。 ・分かるようになること、できるようになることの楽しさを感じることができる。	・個別最適な家庭学習の仕方や内容を模索していく。 ・教員も子どもたちと共に学習を楽しむ姿勢を見せる。 ・結果だけでなく、過程も大切に称賛する。			